

商いの新しいものさし

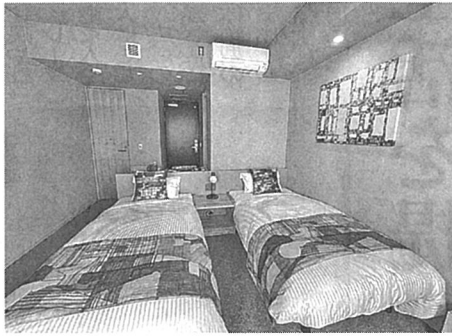
第143回

（株）商い創造研究所
代表取締役

松本 大地

地域リソースを活用した盛岡バスセンター

2022年10月4日
「盛岡バスセンター」が
開業し、官民共創による
新たな地方創生モデルが
誕生した。17年に老朽化
により解体されたバスセ
ンターは、新しい「バス
ターミナル施設」を盛岡
市が所有し、商業などの
「にぎわい施設」は市の
第3セクターである盛岡
地域交流センターより、
整備事業を実施
する特別目
的会社の盛岡
ローカルハブ
が設立され運
営を担う。



ヘラルポニーアートと過ごすホ
テルマザリウムの体験価値

設の概要は、
1階「マルシ
エゾン」で
は阿部鮮魚
店、GREEN
T B U R G
E R、茶菓は
なむけ、福田

パン、The BAKE
R、そば処南部、クイッ
クキッチンといった地
元の食物販を中心に、保
険クリニック、バス2社
の発券窓口、みちのりト
ラベル東北が同居した。
特に福田パンは盛岡を代
表するソウルフードとし
て、地域に愛され観光客
からも土産として買い
求められる。

2階「フードホールズ
ーン」には、ワインレス
トランTAKU、ピエパ
ーペアレン、焼鳥とめし
清造、中華の場周辛麺
とすべて地元で人気のお
る飲食店の構成。特徴は
様々なローカル食を一つ
のテーブルで自由に注文

し食することができ、地
元客とホテル宿泊者とが
集う空間が作られた。
3階「ホテルゾン」
には、ホテルマザリウム
大型温浴施設、マッサー
ジのBODY EVO、
秋吉敏子ジャズミュージ
アム、Cafe Bar
West38、いんペク
リーニングが集積した。
ホテルマザリウムは34室
ながら、アートプロデュ
ースを「ヘラルポニー」
が手掛け、オペレーショ
ンを紫波町「オガール」
が担当し、盛岡ローカル
ハブが所有と経営をする
事業スキームが作られ
た。ヘラルポニーアート
ルームは8部屋あるが、
知的障害者一つの可能性
として異彩のアートに彩
られた宿泊体験ができ
る。

ホテルラウンジでは01
年より駅近くでジャズ喫
茶「開運橋ジョニー」を
経営する照井店主のつな
がりにより、ニューヨーク
ク在住の世界的ジャズピ
アニスト秋吉敏子さんか
ら贈られた展示ミュージ
アムが併設された。広々
とした炭酸水の温浴施設
ではサウナ、ボディケア
や垢擦り体験ができる。
また、滞在型ゲストには
最新鋭のコインランドリ
ーが併設されるなど、泊
まる体験価値を深めたラ
イフスタイルホテル業態
が出現した。まさに多様
な価値観が混ざり合う、
「まさる、うむ、はじま
りホテル」のコンセプト
の存在感が際立つ。
プロデューサーとして
バスセンター事業を推進
したオガールの岡崎正信
氏は、「自立できる地域
を創造するには、地域が
持つ風土、風俗、カルチ
ャーを大事にし、営み生
きる権利を地域の方々に
与えること」だと話す。
実際に私たちがどこか地
方都市に出かけると、そ
の地域ならではの文化や
生活に触れてみたいとの

思いがある。
新生バスセンターはエ
リアを一つの事業体とし
て見立て、エリアの価値
を最大限に高めていく街
づくりを注力していく。
バスセンター近くには
「肴町商店街」という地
域の個店が集積するアー
ケード商店街があり、17
年に閉店した大型商業施
設「Nanak」(ななっ
く)では、再開発計画
が進行中である。街の評
価は人々が集いたい、行
きたい、住みたいと思っ
てもらえる基準で決ま
る。街づくりには部分的
なパーツ思考ではなく、
エリア全体を俯瞰して見
ていく思考が重要であ
る。
本計画に商業コンサル
ティングとして参画した
筆者の考えだが、盛岡駅
ビルフェザンから2kmの
距離にあるバスセンター
の中間地点には地元百貨
店カワトクがあり、フェ
ザンとバスセンターの2
つを結ぶ開運橋通り、菜
園通りには個性的な地元
飲食店やビュティィー、
ショップなどが点在す
る。この通りを歩いて楽
しめるウォークアブルな街
路にすることで、盛岡ら
しい異限空間が期待でき
ると考える。街路にリス
ムよく植栽やストリート
ファニチャーを設え、歩
道に染み出したカフェや
レストラン、開放性ある
ショップが連続する、そ
んなる核1モールの道づ
くりを提唱していきたく
い。

これから地方都市に必
要なのは、郊外に広がり
すぎた商業開発から、街
の中心部に日常のハレの
場を再生していくこと
だ。欧米の先端都市では、
クルマに優しい街づくり
から、人に優しい街づく
りに転化している。中心
部を歩いて楽しい街路づ
くりには、大きな街の価
値と商機のものさしがあ
る。